

公開用 研究内容

研究課題名	糖尿病患者に対する SGLT2 阻害薬投与における尿糖排泄量の変化についての検討
研究の内容	<p>【目的】 SGLT2 阻害薬の長期における効果を評価するために、投与開始から 1 年以上経過した患者さんの 24 時間蓄尿での尿糖排泄量の変化を検討します。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 当院通院中の糖尿病患者さんで 2017 年以降に SGLT2 阻害薬が開始され、投与開始前、投与開始後 1 年以内、さらにその 1 年後の 3 回で 24 時間蓄尿を評価できた症例。 ●利用する検体、カルテ情報 カルテ情報：診断名、年齢、性別、検査結果（血液検査、尿検査） <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 若山尚寛 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	糖尿病
研究責任者	糖尿病・腎臓内科 若山尚寛
承認年月	2024 年 1 月

研究課題名	イメグリミンの治療効果の検討
研究の内容	<p>【目的】 2021 年 9 月に本邦でイメグリミンが上市されました。比較的新しい薬剤であり、まだその有用性についての報告は多くはないため、イメグリミンの血糖に与える作用について検討しました。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 2 型糖尿病の患者さんで、西暦 2021 年 11 月 1 日から西暦 2023 年 5 月 31 日の間にイメグリミンの処方を受けた方 ●利用するカルテ情報 カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、血液検査結果

	<p>【提供方法】自施設</p> <p>【利用範囲】自施設</p> <p>【情報管理責任者】上田健太郎</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	2型糖尿病
研究責任者	糖尿病・腎臓内科 上田健太郎
承認年月	2024年1月

研究課題名	冠動脈瘤に合併する急性冠症候群に対するエキシマレーザーの有効性
研究の内容	<p>【目的】 冠動脈瘤に合併する急性冠症候群に対するエキシマレーザーの有効性を評価する</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 西暦2010年1月1日から西暦2023年12月31日までに大垣市民病院にて冠動脈瘤によって急性冠症候群を発症し、経皮的冠動脈形成術を行なった患者 ●利用する検体、カルテ情報 検体：なし カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、既往歴、検査結果（血液検査、画像検査、心電図検査、心エコー検査、冠動脈造影所見、冠動脈形成術に使用した物品）、負荷シンチ検査所見、死亡の有無、カテーテル治療の有無 <p>【提供方法】自施設</p> <p>【利用範囲】自施設</p> <p>【情報管理責任者】柴田 直紀、森島 逸郎</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	冠動脈瘤によって急性冠症候群を発症した患者
研究責任者	循環器内科 柴田 直紀、森島 逸郎
承認年月	2024年1月

研究課題名	エキシマレーザーを使用した経皮的冠動脈形成術に関する臨床的
-------	-------------------------------

	予後調査
研究の内容	<p>【目的】 冠動脈疾患を有する患者における、エキシマレーザーを用いたカテーテル治療の有用性の検討を行う</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 西暦 2016 年 1 月 1 日から西暦 2023 年 12 月 31 日までに大垣市民病院にて経皮的冠動脈形成術を行なった患者 ●利用する検体、カルテ情報 検体：なし カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、既往歴、検査結果（血液検査、画像検査、心電図検査、心エコー検査、冠動脈造影所見、冠動脈形成術に使用した物品）、負荷シンチ検査所見、死亡の有無、カテーテル治療の有無 <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 柴田 直紀、森島 逸郎 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	冠動脈疾患を有し経皮的冠動脈形成術を施行された患者
研究責任者	循環器内科 柴田 直紀、森島 逸郎
承認年月	2024 年 1 月

研究課題名	薬剤師による早期モニタリングとフィードバックがアミノグリコシド系薬の適正使用に与える影響
研究の内容	<p>【目的】 アミノグリコシド系薬の適正使用に対して、薬剤師主導の早期モニタリングとフィードバックが与える影響を明らかにする。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 西暦 2014 年 1 月 1 日から西暦 2023 年 12 月 31 日までに大垣市民病院において、アミノグリコシド系薬（当院採用薬であるトブラマイシン、アミカシン、ゲンタマイシンおよびアルベカシン）が静脈注射された入院患者さん ●利用するカルテ情報 カルテ情報：患者背景（年齢、性別、体重、感染巣）、血液所見

	<p>(腎機能、血液培養検出菌、血中濃度)、治療(投与量、投与理由、薬剤師による介入、抗菌薬適正使用支援ラウンド介入)、転帰(30日以内死亡、腎障害を含む副作用発現)</p> <p>【提供方法】自施設</p> <p>【利用範囲】自施設</p> <p>【情報管理責任者】篠田康孝</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	アミノグリコシド系薬使用患者
研究責任者	薬剤部 篠田康孝
承認年月	2024年1月

研究課題名	<p>病院における薬剤師外来の役割と評価</p> <p>- 経口抗がん薬、オピオイド、エピペン、吸入薬 -</p>
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>経口抗がん薬、オピオイド、エピペン、吸入薬に対する薬剤師外来を病院薬剤師が行う利点の検討</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん <p>下記の期間、対象薬剤が大垣市民病院で処方された患者さん</p> <p>経口抗がん薬: 対象薬剤が西暦2020年4月1日から西暦2023年12月31日まで</p> <p>オピオイド: 西暦2018年1月31日から西暦2022年12月31日まで</p> <p>エピペン: 西暦2023年7月から西暦2023年12月31日まで</p> <p>吸入薬: 西暦2018年4月30日から2023年12月31日まで</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用する検体、カルテ情報 <p>カルテ情報: 対象薬剤が処方された患者数、年齢、身長、体重、体表面積、処方内容、副作用</p> <p>【提供方法】</p> <p>自施設</p> <p>【利用範囲】</p> <p>自施設</p> <p>【情報管理責任者】西村 充礼</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	悪性新生物、アレルギー、喘息、COPD等

研究責任者	薬剤部 西村 充礼
承認年月	2024年1月

研究課題名	小児期の慢性好中球減少症の検討
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>小児期の慢性好中球減少症の多くが、乳児期に発症する自己免疫性好中球減少症が原因ですが、その他に白血病などの血液悪性疾患、重症先天性好中球減少症などの遺伝性疾患といったの多彩な原因があります。現在のところ小児期の慢性好中球減少症に対する検査の進め方や自己免疫性好中球減少症の治療方法は定まっていません。本研究では、小児の慢性好中球減少症患者さんの原因、症状、治療法、治療期間、予後などを検討し、今後の検査法や治療法に役立てます。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん <p>西暦2018年4月1日から西暦2024年2月26日の間に慢性の好中球減少症と診断された15歳以下の方</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用する検体、カルテ情報 <p>検体：なし</p> <p>カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果、治療法、治療期間、予後。</p> <p>【提供方法】 自施設</p> <p>【利用範囲】 自施設</p> <p>【情報管理責任者】 小島 大英</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	15歳以下の慢性好中球減少症患者
研究責任者	小児科 小島大英
承認年月	2024年2月

研究課題名	小児炎症性腸疾患の臨床的検討
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>炎症性腸疾患とは、慢性あるいは寛解・再燃性の腸管の炎症性疾患を総称しており、一般に潰瘍性大腸炎とクローン病を指します。</p> <p>近年、小児の炎症性腸疾患の患者さんが増えてきています。小児炎</p>

	<p>症性腸疾患の臨床症状、検査結果、治療方法、治療期間などを把握することで今後の診療に役立てます。</p> <p>【方法】</p> <p>●対象となる患者さん 西暦 2018 年 4 月 1 日から西暦 2024 年 2 月 26 日の間に潰瘍性大腸炎またはクローン病の診断を受けた 15 歳以下の方</p> <p>●利用する検体、カルテ情報 検体：なし カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査、消化管内視鏡検査、注腸 X 線検査）、治療法、治療期間。</p> <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 小島 大英 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	潰瘍性大腸炎、クローン病
研究責任者	小児科 小島大英
承認年月	2024 年 2 月

研究課題名	前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺吊り上げ術の臨床的検討
研究の内容	<p>【目的】 前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺吊り上げ術の有効性と安全性を示し、今後の治療選択において有用な情報を提供するため。</p> <p>【方法】</p> <p>●対象となる患者さん 前立腺肥大症の患者さんで、西暦 2023 年 7 月 1 日から西暦 2024 年 3 月 21 日の間に経尿道的前立腺吊り上げ術を受けた方</p> <p>●利用する検体、カルテ情報 カルテ情報：年齢、性別、身長、体重、BMI、主訴、前立腺体積、前治療、治療前 IPSS、治療前 OABSS、尿流量測定、残尿量、麻酔方法、既往症、術後 IPSS、術後 OABSS、術後尿流量測定、術後残尿量、尿道カテーテル留置期間、自己導尿離脱率、合併症</p> <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設</p>

	<p>【情報管理責任者】 谷口 友規</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	前立腺肥大症
研究責任者	泌尿器科 谷口友規
承認年月	2024年3月

研究課題名	十二指腸乳頭部癌に対する腹腔鏡手術と開腹手術の比較研究
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>2008年から2023年の期間に当院で実施した十二指腸乳頭部癌に対する腹腔鏡手術と開腹手術を後方視的に解析し、患者背景、短期成績、長期成績について検討を行う。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん <p>2008年から2023年の間に当院で根治切除を企図して手術が行われ、術後病理組織検査で十二指腸乳頭部癌と診断された患者さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用する検体、カルテ情報 <p>カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査、など）。</p> <p>【提供方法】 自施設</p> <p>【利用範囲】 自施設</p> <p>【情報管理責任者】 佐久間 政宜</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	十二指腸乳頭部癌と診断された患者さん
研究責任者	外科 佐久間政宜
承認年月	2024年3月

研究課題名	進行・再発大腸がんにおけるパニツムマブ投与時の低マグネシウム血症に対する薬剤師主導によるプロトコール作成の有用性
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>EGFR抗体薬であるパニツムマブは、進行・再発結腸・直腸がんに対して使用されており、特徴的な副作用に皮膚障害や爪囲炎、低マグネシウム血症がある。低マグネシウム血症では初期は自覚症状に乏しいが、重篤化すると治療の継続に困難になる場合がある。そこで、低マグネシウム</p>

	<p>ム血症の発現時の対応について薬剤師主導でプロトコールを作成し、その有用性について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 大腸がん患者さんで、西暦 2010 年 1 月 1 日から西暦 2023 年 12 月 31 日の間にパニツムマブの投与を受けた方 ●利用する検体、カルテ情報 後向き観察研究 研究対象者について、下記の臨床情報を診療録より取得する。 <ul style="list-style-type: none"> ① 臨床所見（年齢、性別、BMI、臨床病期、原発部位、転移部位、治療レジメン名、治療ライン、コース数、治療成功期間） ② 血液所見（血清マグネシウム等） ③ 治療内容（投与量、減量の理由、中止理由） ④ 副作用（低マグネシウム血症、皮膚障害等） <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 伊藤 大輔 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	大腸がん
研究責任者	薬剤部 伊藤大輔
承認年月	2024 年 3 月

研究課題名	高齢な卵巣がん患者のニラパリブに対する忍容性評価-予備調査-
研究の内容	<p>【目的】 本研究では、75歳以上の高齢者における副作用発現率を検証し安全性を明らかにする。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 2020 年 1 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日の間に大垣市民病院にて、卵巣がん患者にニラパリブが投与された患者 ●利用する検体、カルテ情報 検体：なし カルテ情報：患者特性（年齢、性別、身長、体重、ALB、CRE、臨床病期）、用量、NRS による評価、副作用、維持量達成状況、治療中止事由 <p>【提供方法】</p>

	自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 松山里奈 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する
対象疾患	卵巣がん
研究責任者	薬剤部 松山里奈
承認年月	2024年3月

研究課題名	小児アドレナリン自己注射患者を対象とした薬剤師によるエピペン外来の有用性評価
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>アドレナリン自己注射薬（エピペン®）は、2005年に小児への処方が可能となり、アナフィラキシーの緊急時治療として重症化リスクの軽減につながることが期待されています。しかし、アナフィラキシー出現時に医療機関受診前のエピペン使用率が46%であるという報告や、エピペンを所持しているにも関わらず約半数が使用できていないという報告があります。この原因としてアナフィラキシー症状の認識が不十分であることやエピペンを使用することへの恐怖心などが考えられます。エピペンは自己注射であるため、使用タイミングや使用方法について患児または保護者がしっかり理解しなければならず、患者教育が重要となります。これまで当院では、医師がエピペンを処方する際、小児科外来にて医師または看護師より説明が行われていましたが、指導に十分な時間を費やすことができないことが課題でした。こうした背景から、2023年7月より薬剤師がエピペン処方患児への指導を開始しました。そこで今回、エピペンに関する患者の理解度の変化や指導の満足度についてアンケート調査を実施し、薬剤師がエピペン指導に介入することによる有用性を評価します。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 2023年7月1日から2024年3月31日の間に大垣市民病院にて、エピペンが処方された小児患者さん ●利用する検体、カルテ情報 検体：なし

	カルテ情報：患者特性（年齢、性別）、指導前後のアンケート用紙 （理解度調査、満足度調査）、指導用説明書 【提供方法】自施設 【利用範囲】自施設 【情報管理責任者】吉田真也 【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する
対象疾患	小児のアナフィラキシー
研究責任者	薬剤部 吉田真也
承認年月	2024年3月

ここに記載しました臨床研究で試料等の利用に同意されない場合には、研究実施診療科までお申し出下さい（代表電話番号:0584-81-3341）。